

第2期茨木市総合戦略(概要版)

I 総合戦略策定にあたって

1 第1期茨木市総合戦略の振り返り

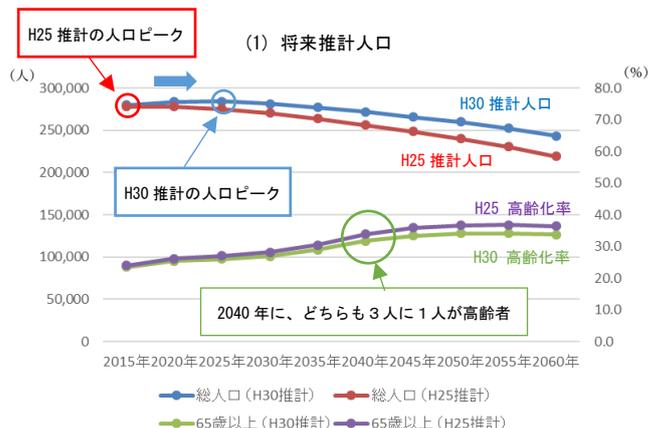
6つの基本目標・数値目標を掲げて各施策に取組み、達成できていない数値目標はあるものの、概ねの指標は改善している。

基本目標	指標	基準値	目標	現在値	達成状況	基本目標	指標	基準値	目標	現在値	達成状況
①若い世代に選ばれるまち	ファミリー層の転出入	転入超過	維持	転入超過	○	④魅力と活力あふれるまち	市内雇用者数	100,247人	増加	102,324人	○
	茨木市に住みたいと考える学生の割合	16%	20%	34.6%	○		⑤個性・資源をいかした北部地域の活性化	北部地域における交流人口	165,079人	増加	140,697人
②出産・子育てを応援するまち	合計特殊出生率	1.41	上昇	1.45	○	⑥安全安心にいつまでも暮らせるまち		普段から各家庭の備蓄等を意識している割合	16%	20%	52.1%
	子育てについて「楽しいと感じている」割合(就学前)	66.0%	上昇	62.2%	×		自主防災組織結成率	86.6%	100%	95.4%	△(改善)
③高齢者がいきいき活躍できるまち	シニアいきいき活動ポイント登録者数	334人	1,000人	729人	△(改善)						
	地域で活動している人の割合(65歳以上)	49.3%	上昇	53.0%	○						

2 人口ビジョンの点検・整理

(1) 将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所推計) 《H25推計(H22国調ベース)→H30推計(H27国調ベース)》

総人口のピークが10年延び、高齢化もわずかに緩やかになっているが、どちらも2040年に3人に1人が高齢者となる推計であり、傾向は前回と同様

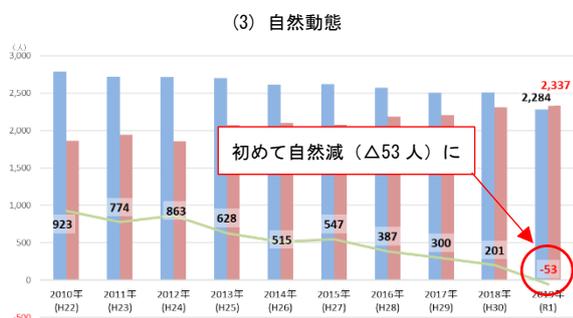


(2) 社会動態(住民基本台帳)

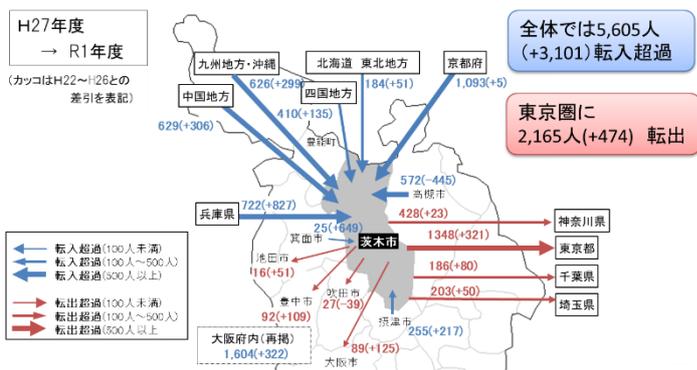
直近5年間では、5,605人の転入超過であり、東京圏への転出超過は継続しているが、転入超過の伸びの方が大きい

(3) 自然動態(住民基本台帳)

令和元年度に出生数を死亡数が上回り、初めて自然減に



(2) 社会動態



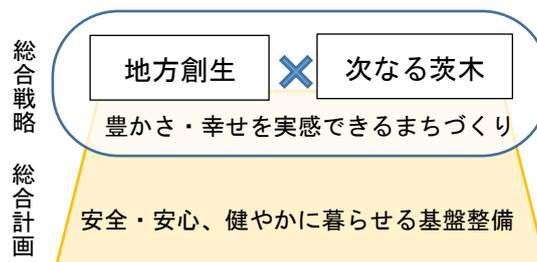
3 国・府の総合戦略の改定の方向性

国・府ともに第1期の枠組みを維持しつつ、Society5.0、SDGs、多様な人材の活躍、関係人口などの視点を追加している。

基本目標	横断的な目標	
①働く地域をつくるとともに安心して働けるようにする	新しい時代の流れを力にする (Society5.0・SDGs等)	多様な人材の活躍を推進する
②地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる		
③結婚・出産・子育ての希望をかええる		
④ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる		

4 総合計画後期基本計画における総合計画と総合戦略との関係

- ・ 総合計画前期基本計画は、重点プランを策定したが、後期基本計画では総合戦略に統合
- ・ 総合計画は、安全・安心などの土台となる施策を推進
- ・ 総合戦略は、総合計画を礎に「次なる茨木」を推進
- ・ 地方創生を踏まえて取り組んできたまちづくりの活動が生まれる「場」づくりを総合戦略で推進



II 第2期茨木市総合戦略の考え方

国・府が第1期の枠組みを継続していることや、推計人口や人口構造の傾向に大きな変化は無いことから、本市総合戦略の改定にあたっては、基本的に第1期を継続としつつ、一部基本目標を組み替えるほか、コロナ対策、DX及びSDGsの推進、活動人口の創出・拡大、豊かさ・幸せが実感できる「場」の創出などの新たな視点を取り入れ、地方創生を推進する。

<新たな視点の取り入れ>

- 1 新型コロナウイルス感染症を踏まえた施策の推進**
感染拡大防止とともに、With・After コロナを見据えた地域の経済・社会の活性化
- 2 次なる茨木DXの推進**
コロナを市民の暮らし、行政のあり方等を変革する契機と捉え、DXを推進
- 3 地方創生SDGsの推進**
国と同様にSDGsを原動力とした地方創生を推進
- 4 「活動人口」の創出・拡大**
地域の継続的な発展に重要なまちづくりの担い手である「活動人口」の創出・拡大
- 5 豊かさ・幸せが実感できる「場」の創出**
まちの魅力を高めるため、まちを歩きたい・過ごしたいと感じる「ここちいい“場”」の創出

<基本目標の組み替え>

第1期基本目標

- 目標1（社会増施策）
若い世代に選ばれるまち
- 目標2（自然増施策）
出産・子育てを応援するまち
- 目標3（人口構造変化対応）
高齢者がいきいき活躍できるまち
- 目標4（魅力活力向上）
魅力と活力あふれるまち
- 目標5（魅力活力向上）
個性・資源をいかした北部地域の活性化
- 目標6（安全安心）
安全安心にいつまでも暮らせるまち

第2期基本目標

- 目標1（社会増施策）
若い世代に選ばれるまち
- 目標2（自然増施策）
出産・子育てを応援するまち
- 目標3（人口構造変化対応）
誰もがいきいき活躍できるまち
- 目標4（**魅力向上**）
人が集まる魅力あるまち
- 目標5（**活力向上**）
快適で活力あふれるまち
- 目標6（安全安心）
安全安心にいつまでも暮らせるまち

Ⅲ 基本目標に基づく施策の方向性

基本目標1 「若い世代に選ばれるまち」

【数値目標】

指標	基準値	目標（令和6年度）
ファミリー層の転出入	転入超過	維持
茨木市に住みたいと考える学生の割合	34.6%	40%

【施策の方向性】

①就職を機に転出する世代を引き留める

①大学生の転出を引き留める取組、②新規開業者の創業促進と成長支援、③産学連携に取り組みやすい環境づくり、④市内事業者と求職者のマッチングに向けた取組

②子育て・ファミリー層の居住地選択における優位性をいかし、さらに伸ばす

《子育て環境の整備》

①保幼小中連携の推進、②市立幼稚園の子育て支援、保育所の地域開放事業の推進

《特色ある学校教育の充実》

③第5次計画「茨木っ子プランネクスト5.0」の推進、④ICTを活用した教育環境の充実、⑤子どもの居場所の確保

《子どもの安全確保》

⑥児童、生徒の安全対策、⑦地域の安全確保

③大学生が将来、茨木市に帰ってくるような種まきとしての取組

《学生の地域への関わり・連携促進》

①地域・大学の連携支援、②産学連携スタートアップ支援事業の促進、③大学の人材と地域課題をマッチングさせる仕組み・場の創出

基本目標2 「出産・子育てを応援するまち」

【数値目標】

指標	基準値	目標（令和6年度）
合計特殊出生率	1.45	上昇
子育てについて「楽しいと感じている」割合（就学前）	62.2%	上昇

【施策の方向性】

①心理的・経済的に安心して妊娠、出産、子育てできる環境の整備

《妊娠・出産期からの切れ目のない支援（いばらき版ネウボラ）》

①母子保健事業の推進

《子育て支援》

②就学前教育、保育の充実、③母子保健事業の実施、④子どもの健康の保持、増進、⑤地域における子育て支援、⑥障害のある子どもをもつ家庭への支援の充実、⑦子どもの居場所の提供、⑧学童保育の充実

《経済的・社会的支援》

⑨各種支援制度の充実、⑩ひとり親家庭への支援の推進、⑪就学・修学に伴う支援、⑫子ども・若者自立支援の推進

《子どもの貧困対策》

⑬学習・生活支援の推進

②仕事と子育てを両立することのできる子育て支援

《安心して子どもが預けられる環境整備》

①特別保育の充実、②私立保育所等の保育環境の充実、③学童保育の充実

《職場環境の改善》

④働き続けられる職場づくりの推進、⑤再就職への支援

③次代の親となる若者が子どもをもち、育てるための意識啓発

《結婚・出産・子育てへの気運の醸成》

①子育て・子育て支援等の意識啓発、②次世代育成支援に関する意識啓発

基本目標3 「誰もがいきいき活躍できるまち」

【数値目標】

指標	基準値	目標（令和6年度）
地域で活動している人の割合	50.8%	上昇

【施策の方向性】

①高齢者の居場所と役割の創出と地域・経済での活躍

①高齢者のいきがい推進、②高齢者関係団体の育成・支援、③高齢者を対象とした起業の支援

②地域で自立した生活を元気に送り続ける

①健康寿命の延伸に向けた取組、②地域で自立した生活を送り続ける取組の推進、③健康美の推進、④バリアフリー化等の推進

③誰もが地域で活躍できる社会の実現

①障害者の地域経済における活躍推進、②多文化共生の地域づくりの推進、③男女共同参画の推進

基本目標4 「人が集う魅力あるまち」

【数値目標】

指標	基準値	目標（令和6年度）
今後の定住意向	75.9%	上昇
北部地域における交流人口	140,697人	増加

【施策の方向性】

①市民会館跡地エリア活用

①複合施設の特徴を活かした各機能の充実・連携、②公共空間や芝生広場を活用した各種取り組み・活動人口の創出・拡大、③新施設をはじめとした活動の場の整備・充実

②人口動態を支える魅力と機能を備えた拠点の形成

①都市拠点(中心市街地)の魅力と機能の充実、②観光あるき事業の推進、③中心市街地における東西軸(中央通り、東西通り)の景観形成や町家等の歴史・文化を生かした景観まちづくりの取組、④地域拠点の魅力と機能の充実

③北部地域の交流人口獲得に向けた取組

①既存施設等を活用した交流人口の獲得、②自然等を活用した交流人口の獲得、③交通環境の整備による交流人口の獲得、④北部地域の魅力向上の検討・取組

④都市における緑空間の形成

①都市における緑空間の充実に向けた取組

⑤魅力発信(機能)の強化

①シティプロモーションの推進、②地域魅力アップイベント創出育成

基本目標5「快適で活力あふれるまち」

【数値目標】

指標	基準値	目標(令和6年度)
市内雇用者数	102,324人	増加

【施策の方向性】

①大学・研究機関が多く立地しているというポテンシャルを最大限に活用

①地域、大学の連携支援、②産学連携に取り組みやすい環境づくり、③新規開業者の創業促進と成長支援

②彩都地域における産業集積の促進

①彩都等における成長産業等の集積促進や新たなまちづくり、②国土軸へのアクセスなど地域特性をいかした企業等の誘致促進

③空家や公共施設に係る取組

①空家対策、空き店舗対策の推進、②公共施設等の老朽化に対する適切な対応

④公共交通をはじめとした交通環境の整備

①茨木市総合交通戦略の推進、②都市計画道路整備、道路新設・改良の推進、③山間部及び丘陵部における移動支援の推進

⑤地域特性をいかした産業施策と雇用促進

①幹線道路沿道の土地利用の推進、②商工業振興補助、小売店舗改築(改装)補助事業など、③産業活性化や高付価値化等につながる取組の促進、④企業立地支援、⑤市内事業者の事業活動への支援の充実、⑥雇用の促進

⑥6次産業化や里山的景観活用などの取組

①都市住民と遊休農地とのマッチングの推進、②農業の6次産業化の支援、③特産品やブランドづくり、アンテナショップなどの支援、④北辰中学校跡地活用推進

基本目標6「安全安心にいつまでも暮らせるまち」

【数値目標】

指標	基準値	目標（令和6年度）
自主防災組織主催訓練等への参加人数	9,082人	10,000人
自主防災組織結成率	95.4%	100%

【施策の方向性】

①安心して子育てできるまちの推進

①児童・生徒の安全対策、②地域の安全確保、③子どもの見守りと安全で安心な居場所の提供、④「地域の子どもは地域で見守り、育てる」活動を行うための支援

②災害や感染症に備える

①防災体制の強化、②防災意識の高揚の促進、③施設等の耐震化の推進、④感染症予防対策の推進

③消防・救急体制の充実並びに地域医療体制の確保

①応急手当の普及啓発活動、②消防・救急体制の強化、③市内地域医療体制の確保など

IV 多様な意見の反映

国の戦略策定に向けた通知において、「幅広い層の住民をはじめ、産官学金労言士などの多様な主体の参画を得るなど、各々の地域の特性に応じた検討プロセスを経ることが重要」とあることから、外部有識者のご意見や、これまでの取組から得た多様な意見を本戦略の取組に反映している。

<外部有識者の意見>

第1期総合戦略の策定及び進捗管理で、助言をいただいている外部有識者5人に第2期策定においても、素案段階でご意見をいただき、本戦略の取組等に反映している。

- 【主なご意見】
- ・ 第1期の分析をしっかりと行うこと
 - ・ 新たな視点が戦略にどのように関連しているかを明確にすること など

<市民や学生等の意見>

第1期の期間中、まちの持続的発展に向け、多くの人に関わっていただきながら、場の創出や政策立案など、様々な取組を行っており、その中から出てきた意見や感想などを第2期の取組に反映している。

